第 19 回　小豆島町総合教育会議

【日時・場所】

○開催日時　令和元年 7 月 30 日（火）　午後 1 時 30 分～午後 2 時 35 分
○開催場所　役場本館 3 階　大会議室
○出 席 者　松本町長、坂東教育長、真砂委員、中川晋委員、照下委員、中川剛臣委員
谷小豆島町議会議長、藤本小豆島町議会副議長、
安井教育民生常任委員会委員長、大下教育民生常任委員会副委員長、
中松総務建設常任委員会委員長
木村小豆島中央高等学校教頭、笠井小豆島中学校校長、出水池田小学校校長
大山星城小学校校長、川井安田小学校校長、三木苗羽小学校校長
慈氏せいけんじこども園園長
○同 席 者　【町職員】
松尾副町長、城政策統括監、松田総務部長、大江企画振興部長、濵田健康福祉部長、後藤教育部長、森学校教育課長、細井社会教育課長、片山教育指導室長
【教育関係者】
岡田園長(旭・福田幼稚園、内海保育所橘・福田分園)
増田内海保育所長、川口幼稚園長、中本池田幼稚園長

○傍 聴 者　　9 名
○事 務 局　　4 名

【内　　容】

[松本町長]
議事に沿って会議を進めていく。議題のこれからの学校のあり方についてである。議事の（１）教育大綱の策定について、（２）教育大綱策定後の状況については、関連する議事であるので一括して事務局より説明をお願いする。
[森学校教育課長]
資料１について、これからの学校のあり方について、これまでの振り返りの資料になる。総合教育会議とか教育大綱とはどのようなものなのか、またその根拠とかについても最初に簡単に説明させていただく。１ページ目。昭和３１年に制定された地方教育行政の組織及び運営に関する法律という教育委員会の組織等を定めた法律がある。この法律が平成２７年４月に大きく３つの改正があった。一つ目は、これまで町長が 5 人の教育委員を任命して教育委員の互選によって教育長と教育委員長を任命していたが、町長が直接教育長を任命するように変わった。この時に教育委員長という制度は廃止になった。二つ目の、総合教育会議についてであるが、1 つは教育大綱の策定、教育条件整備等の重点的に講ずべ

き施策、児童生徒の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置等の協議などを行うため、町長が総合教育会議を設置しなければならないとなった。総合教育会議の構成員は、町長と教育長を含めた教育委員の６名になる。なお会議では、必要に応じて関係者や学識経験者から意見を聴くことができるとなっている。そのため町長、教育委員以外の皆様にも外部有識者として本日出席いただいている。三つ目が、地域の実情に応じ、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱、小豆島町でいう教育大綱にあたるが、総合教育会議の中で協議をして町長が定めるとなっている。

次に「小豆島町総合教育会議」の開催状況についてである。資料１の２ページ、３ページになる。これまで、第１回が平成２７年６月３日に開催し、平成２９年７月２８日まで第１８回開催してきた。総合教育会議の構成員である小豆島町町長、教育委員以外に外部有識者として町議会から議長、副議長、常任委員会委員長、副委員長、学校長、幼稚園長・保育所長、その他有識者が参加して開催してきた。なお教育大綱については、平成２９年３月２７日開催の第１７回総合教育会議で策定をしている。同じ年の５月１日に小豆島教育会議の設立について一部修正があった。

続いて、（２）の小豆島町教育大綱の策定後の状況について。資料２の小豆地域における特別支援学校の整備状況についてである。平成２９年８月１０日に香川県教育委員会が特別支援学校の設置方針（案）を示し、その後同年１２月２５日に特別支援学校の設置予定地を「池田小学校敷地内またはその周辺とする」として、設置方針や設置予定地が決定された。３０年８月１４日には、香川県が特別支援学校建設予定地の用地を取得し小豆島町は町道拡幅整備を行うとして、香川県教育委員会と小豆島町で特別支援学校に係る建設用地等に関する覚書を締結した。その後については、同年１２月１９日に県が小豆地域特別支援学校整備計画を公表、３１年に入って４月には池田小学校ＰＴＡ総会、浜条自治会総会において説明会を開催。また、県が地権者３名に対して用地買収の交渉や農地転用の手続き等を行っている。さらに６月からは学校整備基本設計業務や、造成設計業務を業者に委託し、現在も整備を続けている。また小豆島町においても、建設課を中心に町道拡幅整備に向けて準備を進めている。

特別支援学校を池田小学校敷地またはその周辺に建設することが決定されたことに伴い、特別支援学校と池田小学校が日常・継続的な交流及び共同学習を行う必要があることから、池田小学校は当分の間ではなく将来的に存続させることが必要であると考えている。このことにより、教育大綱の前提条件に変化が生じているので再検討する必要がある。

子どもたちにとってより充実した教育の在り方やこれからの教育の在り方について、どういった教育環境が必要か、目指すべき学校の在り方等、学校管理職や就学前の児童の保護者から意見を聞いているので説明をさせていただく。

［後藤教育部長］

昨年の夏、松本町長から指示を受け、７月～１１月にかけて、小学校の統合について小中学校の管理職を中心に１４名の先生に聞いた意見、幼稚園保育所等の就学前の施設に子どもを預けている保護者から聞いた意見について報告する。資料３の１ページ目は、髙橋前教育長が先生方から意見を聞いて作成した資料になる。それぞれの意見の頭の○、□、●は、このページに限り、○が統合に賛成、□が賛成と懸念がある、●が反対という意見である。項目１つ目、子どもたちのことを考えると３小学校は統合すべきである。小規模校のデメリットを解消できる。２つ目、学校施設や教育環境を早く良くするために統合が

望ましい。３つ目、適正規模の学校の方が、子どもたちが授業や学校生活の中で多様な見方・考え方に出会い、生きる力を育てることができる。４つ目は、教職員も業務改善を図ることができ、生徒指導面においても組織力を活かした対応ができる。５つ目は、子どもの主体性や社会性、コミュニケーション能力を育てることができる。６つ目は、小豆島高校の土地に中学校が建設されることが前提の意見だが、部活動の移動距離がなくなることにより、子どもの安全性、子どもや教師の終了時間の課題解消にもつながる。７つ目は、児童数が減少して学校行事等を盛り上げるのが難しい。□については、子どもの教育、教育環境を考えると統合すべきと考えるが、現状は、特別支援学級の増加など小規模校のメリットであるきめ細やかな対応が活かされない状況にあるのが心配。一方で、統合後地域に開かれた学校となると教員の多忙化を懸念するという意見。最後の●は、児童数が６０人以上いれば、きめ細かく学習指導や生徒指導を行うことができ、学校としての力が発揮できるので統合は反対という意見があった。また、管理職以外の教員の意見として、地域の中の学校であるべきなので、統合に反対するという意見があった。１４名のうち１名が反対したと聞いている。

２ページ目以降は、就学前の施設に子どもを預けている保護者に意見を聞いた。各施設とも保護者が一番集まりやすい時間帯に開催日時を調整し開催した。それぞれの開催日時、時間帯、保護者の出席状況、教育委員会事務局からの出席者を記載している。

３ページ以降は、全ての保護者からの意見、質問とそれに対して事務局が回答したものを記載している。なお、時間の関係上、保護者の意見を抽出して報告する。

福田こども園３つ目の項目。福田の皆さんは福田小学校で統合を経験しているので、統合するならそれでいい。１つ飛んで、将来、池田小学校と統合はするのかという質問。６つ目、統合小学校にはプールが必要だという意見。なお、この「プールが必要だ」という意見については、複数回出てくる。小豆島高校はどこの土地だろうか。香川県には、小豆島高校跡地を早くどうにかして欲しいという意見があった。

橘こども園。制服はどうなるのか。この制服に関する心配につきましても、複数回出てくる。３つ目、認定こども園になったら、保育所橘分園はどうなるのかという質問。一番下、公立認定こども園を苗羽小学校に設置するのは、苗羽小学校が古いからか。この認定こども園の苗羽小学校設置に関する質問も複数回出てくる。

次のページは、保護者とのやり取りが終わった後、保護者が退場されるときに話しているのを聞き取った内容になる。何を言っても決まったら従う。仕方がないという意見。３つ目、小学校が大きくなるといじめが起きるのではないか、という心配も話していた。

苗羽幼稚園。必ず統合するという期限はあるのかという意見。４つ目、教員の配置はどうなるのか。１学級に２～３人付くのだろうかという質問。６つ目、統合小学校になると今より通学距離が遠くなるが、歩かないといけないのかという通学についての心配。これにつきましても、複数回意見があった。一番下、津波が発生した場合、現在小豆島中学校の生徒の避難場所はどこなのかという心配も聞いた。

５ページ内海保育所。４つ目、小豆島高校跡地を中学校にする理由は何なのかという質問。６つ目、今の小豆島中学校を統合小学校にするという話でいくと、国道沿いで通学の際の安全性に懸念がある。その意見は出なかったのかという意見があった。それに対して同じく保護者から、思ったほど危険性はありませんという意見があった。下から４つ目、小学校への改修を１年かけて具体的に何をするのか。という意見があった。次のページ上

から２つ目、これから統合に向けた話が進むと思うが、進捗状況をしっかり報告して欲しい。その次、土庄小学校が先に統合した。その際の話を参考にしてもらいたい。４つ目、安田小学校、星城小学校の跡地利用の予定はあるのか。内海保育所の最後、小学校がなくなると地域との繋がりが薄くなる。地域との関わりを大切にしてほしい。

安田幼稚園。中学校を小豆島高校跡地に移転し、現在の中学校を小学校用に改修することは二重に費用がかかると思うという意見。次のページ一番上、統合しない方がいいと思っているが、統合も理解できるという意見。３つ目、苗羽小学校に公立の認定こども園を設置することに対する意見だが、Ｂ＆Ｇから坂手へ内海湾沿いに産業道路を設置する構想もある。県道と産業道路に挟まれると危険性も増すのではないかという意見。その下で、高松から嫁いできた。地域との関わりが非常に幼稚園では強く、高松では考えられないという意見。次、小学校を統合するのが良い。できることが限られる。次、せいけんじこども園が園児を集めている。これから公立の認定こども園を作って園児が集まるのか。という意見があった。下から２つ目、反対すると統合はなくなるのか。この意見も複数回あった。一番下、小学校のカラー、特色がある。苗羽小学校の音楽はどうなるのか。安田小学校はスポーツに熱心だった。各小学校の特色は活かすのか。各小学校の特色を全て活かすと統合しても人数が分散される。選択肢が多くなる半面、少人数になるのではという意見。この意見についても複数回あった。

次の星城幼稚園、上から４つ目、今問題になっている点は何か。その次、香川県との話が止まっている理由は何かという意見があった。

次のせいけんじこども園。３つ目、反対すると変わるのか。統合に反対ではない。同時に中学校を小学校用に改修するのは二重投資ではないかという意見。４つ目小豆島高校跡地に小学校を設置し、中学校は部活の時だけ小学校へ行く方法もあるのではないか。その下、義務教育学校とか、小中一貫校にするという意見は出なかったのか。その次、認定こども園が苗羽小学校にできると苗羽は活気づくと思ったが、少年野球が練習できなくなる。これは、苗羽小学校が運営されている間に公立の認定こども園を設置するという併設案に対する意見。

次の１０ページ一番上、小学校統合は決まったことなのか。土庄町から転入してきた。土庄小学校と比べ先生の目が届いていると感じた。２つ目、今だと小学校に慣れない子どもは内海地区で転校できるが、統合小学校になると転校できなくなる。逃げ場がなくなる、中学校の統合はどうだったのかという意見。３つ目、統合した土庄小学校の現状はどうなのか。納得感は、統合する、しないの費用の比較が必要だと思う。その比較を示してほしいという意見。

最後１１ページこどもセンターだが、書面で１枚提出があった。本年度の池田小学校１年生は１４名と聞き、子どもの環境や経験値、社会性など重視すると池田小学校も統合に入れてほしい。という意見があった。

以上のとおり、さまざまな意見を保護者からいただいた。

［森学校教育課長］

最後の資料４になるが、１枚目が２町合併の平成１８年度から現在までの小学校児童数の推移表。２枚目が本年から令和７年度までの児童数の推移表となる。まず一枚目だが、上側が小学校児童数、下はグラフになる。合併後から現在までで１３年間あるが、１３年で比較すると４小学校合計で約３００人、１年にすると３５．４％ほど減少している。４

小学校すべてが３０％以上減少している状況。続いて２枚目は推計表になる。これはあくまで住民基本台帳上の数字になるので、転入、転出、指定校変更もあるので今後変更の可能性は十分ある。本年度から令和７年度まで６年間で比較すると、４小学校合計で約６０人、率で約１１．３％減少する見込み。各学校の状況は、池田小学校は８．８％増加。内海地区３小学校はすべて減少傾向で、３つ合計で　約１９．６％減の見込み。個別だと星城小学校は０．８％減、安田小学校２５．７％減、苗羽小学校は３２．２％減となっている。これも同様に上が児童数の推移、下がグラフとなっている。以上で説明を終わる。

［松本町長］
　ただ今事務局から説明が終わった。議事１、議事２に関して質疑・意見等ないか。今回、先ほども説明したが、以前大綱を作った時から状況変化が生じたというのは、池田小学校を当分の間でなく長いスパン残さなければならないという状況になってきたことがまず１点ある。そういった中で「将来的には池田小学校の統合も含めて考えていくべき」ということが前の大綱を作った時の考え方で、根底にはあったと思うが、そのあたりが崩れてきた。というのも、小豆島町の中に複数学級を生じる小学校とそうではない小学校、ダブルスタンダード、が出てくるのではないかということが大きなところ。そういった面から、同じ町内にいるのに２つの考え方による小学校が本当にいいのかということもあり、これからの学校の在り方については、統合を含めてになるが再度検討をしたいということで今回集まってもらった。それが今までの状況である。何か意見・質問等ないか。
［真砂教育委員］
　この令和７年になると、苗羽小学校が８０人。こういう人数になってくるが、複式とか学校１つ直すと４０億かかるということも踏まえて、これからどうしていったら良いか考えていかなければならないと、この資料を見て思った。
［松本町長］
　他に意見はないか。教育委員に順番に聞いていく。
［中川晋教育委員］
　指名されるのであれば先に言ってほしい。
　過去の１８回審議していく中で、１２回目に確かこの学校統合の話が出てくる。ということはそれ以前のことについては、いわゆる今の小豆島の小学校が置かれた状況、それに対する外の環境というか海外も含めて、今のグローバル化とかＩＴ化だとかあるいは全体としての少子高齢化に対して、子どもたちの目線に立って考えたときに、今後、小豆島の小学校はどうしていくか中学校はどうしていくか、ということが根底にあって、１２回目の統合の話に。そういう議論のやり方が本来だろうし、たぶんそうしてきたと思う。今私は、小豆島町と千葉県の柏と両方に家があり行き来しているが、明らかに千葉での環境と小豆島での環境とは違う。どこが違うかというと、小豆島は小豆島としての、先ほどヒアリングの中でもこうだったという話もあったが、１つは地域の絆を大事にしてきたのに、ここでそれを一本にするのは反対だという考え方の人だったと思う。逆に千葉の場合だと、そんなことを言っていられない人口増があって、それに対応するために小学校をどんどん大きくしなければならない。朝なんかいつも通っていて、お祭りでもあるのかと思うくらい信号という信号に全部子どもたちがいっぱいになっていて、信号が変わる度にそこを渡っている。この子どもたちと小豆島の子どもたちとが、いずれ大学に入るときに競争しな

ければならなくなる。それはまだいろいろと日本国内だからいいが、大学を出て海外に行ったらいったいどうするつもりなのか、と心配だった。というのは、例えば隣の中国を見てみると、一人っ子政策と言っていても、それは家庭内における一人っ子政策である。つまり、家庭の中では非常に大事にされて一人っ子一人っ子といっても、この子が小学校に行ったら、中学に行ったら、私の中国の友達が言っているのは、中学２年生だが１学年に２０クラスある。４０人クラスで１学年８００人。全部で２４００人。この２４００人が１から２４００番まで順番がついてしまう。だから学校が終わったらすぐに帰ってどこに行っているかというと、みんな塾に行っている。それで競争が始まる。１番でも上にならないと逆に高校の数が少なすぎて高校に行けないという現状ができている。そういう競争の中でガリガリしている人たちと、今度は国際的な競争の場面にいったときにいったい大丈夫だろうか。グローバル化の中での子どもたちというものも見据えた上で、この小豆島の統合に対して考えてあげないと、子どもたちはいずれにしたって、我々がなくなっていくときにどんどんそういう人達と競争していかなければならない。そういった面で統合という議論は、子どもたちをどうしようとしているのか、つまり統合の後の計画というものがしっかりしないから誰かの意見、いろいろなタイミングが狂った、だからもう一度やり直そうとする時に、また一からやらなければならない。たぶん一からしていたのでは間にあわない。いずれにしたって今の小学校の生徒数がこれだけ激減してくる中で、これから議論をして、それから学校をそれぞれに建てていって高校までの全部が出来上がるまで１０年を越えるだろう。それではまったく間に合わないと思う。

［照下教育委員］

私は以前、前町長の時に、時々後ろの方でこの教育会議を見学していた。前町長は最初、限界まで統合はしない。がんばる、と言っていたが、それが急に統合するという話になったかと思う。先ほど中川さんは、学校間で１人１人学校内で切磋琢磨していくのが良いと言っていたが、それも有りだとは思うが、池田小学校が当分統合には入ってこないとなると、星城小学校、安田小学校、苗羽小学校、特色ある小学校３つが良いところを伸ばしあって学校間の競争をしていくのも有りだと思う。統合しても２クラスくらい。でも、このようにして話を延ばしていくとだんだん統合が遅くなって、その限界の人数に達してしまうので、統合するかしないよりも先に、保護者からトイレを直して欲しいとか要望も出てきているので、相当校舎も傷んでいるということを考えると、どんどん話しあっていかないと思う。私個人、地域のおばさんとしては、やはり地域の中で子どもを育てたいという願望があるが、統計的に費用をみると統合も有りかなという感覚。

［中川剛教育委員］

資料を見ているとこれから子どもたちの数が減っていくというところで、各小学校の老朽化、年数が経っているので１つ１つ立て直しとか改修とかしていくよりも、早めに１つにして１つの学校を建てて統合する形の方が、予算的にもそういった面で良いと思っている。資料の方で現場の先生方の意見ということで賛成の方が多い。普段地域の人たちに、保護者によく会って聞かれることもあるが、統合どうなっている、統合まだやらないの、という声の方が、実際町内では上がっていると思う。

実際に子どもが小学生にいるが、運動会を見ているとやっぱりさみしい。人数が少なくて子どもたちもおもしろくない。また学校の中で、友達関係でも１つの学校の少ない中で友達付き合いが苦手な子とかいるが、その子たちが中学校に入って、いろいろな学校の子

たちと人数が増えて友達ができたとか、そういう声も聞く。自分としては、早めに統合できたらまた明るい学校ができるのではないかと思う。
[安井教育民生常任委員会委員長]
　中川委員も言っていたが、生徒だけの人数の問題だけじゃない。建物自体が老朽化して今度は人的被害があってしまったら困るというところまで来ている状態。永遠に統合が良いかというような議論をしている場合ではない時点に来ている。みんなの意見を聞いたとしても、ここで終わりというような意見の聞き取り方でなく、ある程度、行政がリーダーシップをとってやっていく必要が出てくるかと思う。
[大下教育民生常任委員会副委員長]
　統合については、案内のように全国的に広がっている。というのも日本はいま、過疎と過密の現状にある。ほとんどの市町村が過疎で一部の地域が過密の状況。同じ境遇の中でまったく正反対の状況にあるのは珍しい問題と思うし、教育の在り方を考えたときに、小豆島は二十四の瞳の話がある。これは反戦の物語になるが１２人の生徒と先生との折り合う愛のドラマという感動的なもの。それも教育の大きな基本かと思う。議論されるときにどうしても偏るが、教育の形にこだわって中身が置いていかれているようにも思う。学校でも都会と田舎で大きな差がある。私の甥と姪は神戸に住んでいるが、神戸の学校は全く私服であるし土足。そういった違いもあるし、また日本と世界の教育の違いもある。グローバルとなっていくということは、世界も見ていく必要もあるのではと思う。議論にあたっては視野を広げて検討に入っていきたいと思う。
[中松総務建設常任委員会委員長]
　令和７年度の人数を見ると非常に少なくなっているので、これをどうするのかというのは非常に早急に結論を出す必要があると思う。同時にまた、教育内容についても、入れ物と同時にどういう教育内容なのかということを考えていく必要があると思う。もちろん先生、教育委員会は一生懸命していると思うが、やはり子どもたちにも楽しいこと、辛いこと、今考えなければならないということも教えていく必要があるのではと思う。私はそういうことも大切にしなければならないと思う。
[慈氏せいけんじこども園園長]
　先日、シンガポールに個人的に旅行してきたが、シンガポールの動物園や植物園に子どもたちがたくさん来ている。その子どもたちが、１００％タブレットでその情報を調べてそして先生と交信しているという状況があった。小学生がです。先ほどから教育委員の方々が言っているように、教育の水準そのものも念頭に置きながら統合はもちろんのこと、どんどん進めていかないと置いてけぼりになるのではと非常に不安に思っている。
[三木苗羽小学校校長]
　校長としては意見を申し上げにくいところだが、児童数の推移をみると保護者や地域の方の声を聞くと同時に、学校の教育内容についても工夫していかなければならないと思った。
[川井安田小学校校長]
　小規模校、大規模校どちらの良さもあると思う。しかしながら、業務改善の視点とか学校予算の問題とか考えて、町がどういう教育をしていくかによるのではと思う。私たちはそれを受けて、その学校なりにどんどん工夫をして、やはり大きくなったときに子どもの可能性を狭めるような教育ではあってはいけないと思っている。

[大山星城小学校校長]
　保護者の意見とか見ると、ほとんどの保護者が前向きに考えているというところで、もう背中を押す時期なのかと思う。土庄小学校が統合してもう何年か経つ。統合した当時はとても大変だったと思うが、今、外から見てみるとずいぶん落ち着いている。前例があるのでそのあたりもお手本にできるのかなと思う。
[出水池田小学校校長]
　これまでの会議の中で校長会としては、学校の現状を報告して、そして小規模校の良さ、大規模校になった場合の良さ、デメリット等も報告してきた。お手元の意見の集約のとおりと思っている。川井校長が話したように校長としては、それぞれの教育委員会の考えをもとに各学校がベストを尽くすのが当然であって、校長として学校運営に尽力したいと考えているので、これからもこの会議の中で、もし材料等提供するのであれば、積極的に話をしたいと思う。
[笠井小豆島中学校校長]
　髙橋前教育長から聞きとりがあった時に、私は賛成と答えた。これから生徒数も少なくなって学級数も少なくなってくるということで、学校力のある間に統合して力がある学校を作って、その中で子どもが教育されるというのが望ましいかと思う。
[木村小豆島中央高校教頭]
　実際に小豆島高校と土庄高校が統合して、それまで１０年間は最初から統合に関わってきて、県といろいろな折衝をしてきたが、結局、先ほど出ていたが、ハード面で小豆島高校は耐震ができていないという状況で、検査もしたが、そのまま統合の流れで引っ張っていくと、統合を反対していくと、万一地震が起きたときに生徒たちはどうなるかということも実際考えた。どうしても、統合というのは避けて通れない状況になりつつあるが、デメリットメリットをいろいろ論議したら良いと思うが。実際に高校が統合してからは、なんとか島に根付いたというか、そういったことを考えて取り組んでいる。３年目となるが、それが地域から評価される形で、また地域の支援を受けながら、小豆島町、土庄町にも島の１つの学校として大変な支援を受けているが、それに応えられるようになんとかやってきている。先ほど中学校の小豆島高校の跡地がどうのというのが出ていたが、長い間小豆島高校に勤務していて非常に気になる。もっと広いグラウンドでしてほしいという思いもある。今の時代の流れで働き方改革ということで、まるで部活動が学校の教員の仕事でないような言い方をされる場面もあって、非常にさみしい思いもしているが、やはり教育というのは勉強もそうだが部活動も含めた両輪でやっていくべきと思っているので、ぜひいろんな不便があるところを解消しながら、若干違う視点でもあるが、そういったことも含めて統合も有りなのかということで考えている。
[藤本小豆島町議会副議長]
　小規模校の特色あるメリットについて先ほど話していたが、池田の方から見たら、ＯＢが自分たちの郷愁を小さい子に押し付けているように思えるところもあるので、そういうところをちょっと考えてほしい。
[谷小豆島町議会議長]
　今まで統合という形でずっと統合が是か非かということだが。４つの小学校がある。各生徒数を見ているとだいたいこの７年先くらいが１つ考えないといけない時期かと思う。その中で、今統合するかしないか、反対か賛成か、いろんな意見が出るばっかりで前に進

まないので、例えば教科によってどこかの学校に集まって。生徒全員が入れる教室があるのでは。だからそれで、苗羽なら苗羽に帰って少人数でする部分もあったら良い。安田も星城も一緒に集まって皆で授業するところがあっても良い。学校は４つなら４つそのままで良いが、今、マイクロバスとかたくさんあるので、そういった形でやりながら、これだったら１つの方が良いと皆が納得できるような形でしたらいいのでは。特に運動会なんか小学校単位でしたらさみしい。そういったときは、小豆島中学校のグラウンドを使って各小学校がみんな集まって運動会をしたら良いのでは。そういう形で、柔軟に今ある学校の中で行き来して、最終的に何年先か分からないが、人数が減った頃にじゃあ一緒になるかと。その時に場所を考えたら良いと思う。私としてはそれがベストではと思う。
［松本町長］
　皆さんから一巡意見を伺った。といいながら、最初に申し上げた町内にダブルスタンダードができることはどうかに対する意見がほとんどなかったが、私はその辺りが一番問題かと思う。町内に小規模校の池田小学校は残す。そのかわり内海の３小学校は、ダブルスタンダード、もうひとつの中規模校、標準校となる。そういった教育で良いのかというところをもう少し意見を伺いたい。
［中川晋教育委員］
　池田小学校の隣に新しく特別支援学校を作るという話については、聞いていると、この教育大綱ができあがった後、翌年の話。しかしながらこれも、特別支援学校を小豆島の中に作ろうという話が盛り上がったのは、やはり小豆島の中で特別支援を必要とする子どもたちが、高松に行って高松で勉強してそれで帰ってくる。あるいは帰ってくる時間がなくて向こうに住むという中で、今度はそこを卒業した生徒たちが小豆島に帰ってきても、もう周りには知っている人が誰もいないという中で、これからどうしようかということ。それであれば、一気通貫で生まれてから一緒になって遊ぶ子たちがいて、今度勉強するときには小豆島の中で勉強する。そしてここで大事なのは、特別支援学校というのは、たぶん教育とここに医療と福祉の連携ということが書かれているが、やっぱり教育と医療と福祉と最後に生活、就労という１セットにしてこそ、小豆島に特別支援学校をつくる意味が出てくると思う。そういう中で、今度、池田小学校の生徒数が少なくなったから、これを池田の方も小学校を統合するのかという話については、片一方では県の管轄としての特別支援学校が小豆島の中に来るということ。だとすればいずれにしろ、これが決定した時点でずっと続くのでは。人数が少なくなったからさよならしたら、特別支援学校もさよならと高松に行ってしまうのではと思う。だから、ダブルスタンダードはダブルスタンダードだが、もう今既にそういうことになっているのではと思う。
［松本町長］
　他に意見はないか。皆さんの意見を一巡伺った。私が思っているのは統合の良し悪しではなく、どんな学校が本当に今の子どもたちに必要なのかということをもう少し議論できたらと思っている。学校の規模が、本当に適正規模が良いのかどうかということもあるし、将来にわたって島外に出て大学を出て社会人になって、どういう子どもたちを育てていくのが良いのかという大きなところを、再度検討させてもらいたいと本日集まってもらったところ。他に意見はないか。
［安井教育民生常任委員会委員長］
　ダブルスタンダードの在り方について、私は分からないところがあるので、学校の現場

としてどんな影響が子どもたちにあるのか教えてもらいたい。
［中川晋教育委員］
　小豆島小学校に行きたいという子どもたちも出てくるだろう。それを拘束することはできないよね？
［松本町長］
　それが、学校区制というのがあり地域で決まってくるのが今の状況。
［中川晋教育委員］
　そこで今度悩みは、校区制というときに小学校を統合するということは、校区制を廃止する。廃止するが池田についてはその校区制を残すということになるのか。
［松本町長］
　これについては、教育長から説明する方が良いのかもしれない。
［坂東教育長］
　校区は住んでいる住所地によって、苗羽小学校だと馬木、苗羽、堀越、古江、田浦、坂手地区が苗羽小学校に通学する。安田小学校なら、安田、木庄、橘、岩谷地区とそれぞれ決まっている。もし内海の小学校が統合すれば、旧内海地区の校区が仮称内海小学校、旧池田が池田小学校に通学するのが基本になる。
　先ほど安井議員のほうからあったダブルスタンダードについて、単純に１学年が複数学級で中規模校、適正規模。１学年が１学級の小規模校と大きく分けているが、やっぱり１学年１学級でも、１５人以下。１学年が１０人とか１５人以下の学年が多い。令和７年の苗羽小学校だと１年から５年生まで。こういう程度の小規模校と、１学年平均２５人、３０人いる小規模校とはやっぱり分けてするべきではないかと。私は行政出身で教員経験者ではないが、今後検討していく子どもたちをどういう教育していくかという中では、学校現場の先生方にそのあたり、２５人～３０人の規模で２クラスに分けて少人数教育を推進していくという今までのやり方、これの限界が１学年１５人以下となれば、かなり学力差、支援を要する子どもも最近多いので、このあたり学校現場としてそういう小規模校の中の小規模校でもやっていけるのか。その辺りについて、今後学校の方とも話をしながら、統合、これからの子ども達にどういう教育をしていくかということについて話を進めていきたいと思う。
［松本町長］
　今の説明でよろしいか。他に意見はないか。よろしければ次の議題に移る。
　最後の議題となるが、今後の進め方について教育大綱の見直し等に関して事務局から説明をお願いする。
［森学校教育課長］
　今後の進め方については、まずはこの総合教育会議の中で教育大綱が議論されて最終的に町長が決定するという形をとっている。現在の教育大綱については、非常に細かく明記をされて、現状にそぐわないというところも見受けられる。それから、今日は、議題は、これからの学校のあり方となっているが、教育関係全般にわたって見直し、修正する必要があると思うので、これからの総合教育会議とかで協議して修正していきたいと考えている。
［松本町長］
　事務局から説明が終わった。というのも、教育大綱を添付しているが、例えば３ページ。

学校等の適正配置ということで、小豆島中学校の小豆島高校跡地へ移転の推進と明記している。それからその上に平成２９年から４年間を目標することですでに時間経過していて、この辺り当然修正すべきものであろうと思っている。また、総合教育会議においてここまで具体的に教育大綱で明記するのかという点も議論してきたいところである。あくまでも教育の大綱というのは、大きな方向性を決めるものであり、個々具体的な内容まで踏み込んで決めるものなのか、ということも再度議論していただけたらと思っている。特に総合教育会議というのは、首長と教育委員５名の会議が本来の姿であって、そういうことも含めて、今後、教育大綱の作りこみの仕方についても再度検討させてもらいたい。

何か意見はないか。

［中川晋教育委員］

教育大綱について読ましてもらって、これだけ立派な教育大綱を作っている自治体は、私が知っているところではあまりない。そこまでしっかりしたものが築かれて、いろいろな事情があって一部検討しなければならないところがあると思うが、確か教育審議会１３回目の時、教育大綱の策定の法的根拠というのが議論されたと思うが、この教育大綱で決定されたことの法的根拠はどう考えれば良いか。ここで決議されたということは、この後、町議会の審議を得て決定となるのか。どういうことになるのか。審議差し戻しとなるのか。

［松本町長］

大綱というのは、審議差し戻しはないが、例えば統合について書けば、統合というのは最終的には議会の決定になる。学校の設置条例というのがあり、その条例を改正しないと学校の統合なり廃止はできないということなので、あくまでも学校を統合する、また廃止する、新設するとなれば、議会の決定が最終的な決定となる。

この大綱というのは大まかな方針を決めるべきものであって、個々具体的なところまで踏み込むのはいかがなものかというのは、先ほど申し上げたところである。

［中川晋教育委員］

町議会を拝見して、ある議員からの「あれはどうなった」という質問の中でこの件があったと思うが、聞いている中では議会で決まったのではないかという受け止め方をしたのだが、そうではないのか。

［松本町長］

大綱の方向性というか、それはある程度教育民生常任員会である議会の方でもある程度同意いただいているところだが、ただその中で条件が変わったと。前提要件が変わったので再度検討させていただきいというのが、首長としての考え方。あくまでも前提要件となるところが大きく変わったというのがあって、その中で検討させてもらいたいということで、本日も集まっていただいた。

他に意見はないか。今後、大綱の内容だが、次回ぐらいに内容の事務局案をお示ししたいと思う。その中で本来の総合教育会議は、町長と教育委員、教育長６名の会議であるので、こんなに大勢の方に毎回集まってもらうよりも、必要に応じて有識者の方に出席していただけたらと思う。今後も総合教育会議は開催していきたいと思っているが、この大勢の有識者全員に集まってもらうのは今回限りで、あとは必要に応じて皆さんに出席いただけたらと思う。いかがだろうか、よろしいか。

大綱の案についても、再度、見直し案を次回に提示させていただいて。私とすれば、教育大綱というのは大きな方向性を示すものであると思っているので、そういうことも含め

て改正案を示させてもらって、総合教育会議で意見をいただくということで進めていきたいと思っているが、それでよろしいか。

意見が無いようなので、今の考え方で今後総合教育会議を進めさせていただいて、教育大綱については十分に教育委員の意見を伺う。必要に応じて有識者の方にも参加いただいて意見を述べていただくという方向で進めさせてもらいたいと思う。ということでよろしくお願いする。

以上で、予定していた議事を終了する。なお、今後の開催については、先ほど申し上げたとおり本来の６名で開催させていただき、有識者には、その都度必要に応じて出席いただくということで進めさせていただく。

本日の会議を終了する。